

1. 学校名：山ノ内町立西小学校（4年生 児童30名）

2. 探求課題・活動実践の概要、狙い、目標など

(1) 活動テーマ 「水の大切さ ～山ノ内町のきれいな水～ ～水を守り支える人々～」
「伝統野菜 前坂だいこんを育て味わおう」

(2) 目標

○ふるさとの川の豊かさや美しさに触れ、その水を守り受け継いできた先人の働きを知り、いつまでも守り続けていきたいという気持ちを育てると共に、そのために自分にできる行動を考えることができる。

○地域の伝承野菜の栽培を通し、自分たちの地域の良さや特徴を知り受け継ぐ心を育む。

(3) ESDの視点、育成する資質・能力

①構成概念

- | | |
|---|---|
| <input type="checkbox"/> 多様性（多種多様な現象が起きていること） | <input type="checkbox"/> 公平性（一人ひとりを大切に） |
| <input checked="" type="checkbox"/> 相互性（関わりあっている） | <input checked="" type="checkbox"/> 連携性（互いに連携・協力すること） |
| <input checked="" type="checkbox"/> 有限性（限りがある） | <input checked="" type="checkbox"/> 責任性（責任を持って） |

その他（ ）

②育成する資質・能力

- | | |
|---|---|
| <input type="checkbox"/> 批判的に考える力 | <input checked="" type="checkbox"/> 他者と協力する力 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 未来像を予測して計画を立てる力 | <input checked="" type="checkbox"/> つながりを尊重する態度 |
| <input type="checkbox"/> 多面的・総合的に考える力 | <input checked="" type="checkbox"/> 進んで参加する態度 |
| <input type="checkbox"/> コミュニケーションを行う力 | |

(4) 関連する SDGs



(5) 探求課題・活動実践の概要

【山ノ内の豊かできれいな水 学校の池の川はどこから？】

- ・西小学校の池にも水が流れ込んでいる！それは、どこから来て、どこへ流れるのか調べよう。すると、近くを流れる笹川の水は一部が浄水場に流れたり、農業用水として使われたりして、夜間瀬川に流れ込んでいた。そこにはたくさんのホテルが飛んでいることを発見した。ホテルを見に出かけると共に、ホテルの住める水とはどんな水なのかを調べた。

・私たちが使っている水は山から来ているが、水の少ないこの西地区に、せぎを作って水をひいた先人たちがいることを知り、調査、見学に出かけた。

【自慢できる山ノ内町の水】

- ・社会「きょう土の先人たち」：横倉・須賀川せぎの学習 剣沢ダム見学 奥志賀高原の大沢取水口
「私たちの県」：松本地方のせぎー拾ヶせぎを見に行こう 安曇野のわき水ーわさび農場
(お世話になった方へお礼をしよう メッセージの作成)
- ・水を守るために自分ができる行動・活動を考えよう。学校や各家庭での実践や呼びかけ。

【伝統野菜 前坂だいこんを育てよう】

- ・保存会の方に教えていただきながら、前坂大根の種まき、間引き、収穫、漬物作りをしよう。
- ・前坂大根の特徴や、歴史について調べよう。
(お世話になった方へお礼をしよう)

3. 流れ（指導計画の概略） ↑ 2.（5）同様

4. 活動の成果（効果・反応・所感）

・社会科の授業で水との関わりについて学び、昨年度の地域学習でもSDGsの6「安全な水とトイレを世界中に」が、私たちの住む山ノ内町には十分にあったことを思い出した。しかし、その水は多くの人々のおかげで、安全に飲んだり生活に使ったりすることができ、汚れた水は適正に処理されて自然に戻されていることを知る。また、きれいな水を調べていく中で、人間が飲んだり使ったりできる水は、地球上でもほんの少ししかないことが分かり、日本のように豊富に水を使うことができない地域がたくさんあることを知った。そこで、まず、自分たちの近くの水はどこから来ているのか、近くの川を辿り笹川を見つけ、歩いていけない場所から来ている水の流れは地図で調べることにした。すると、見学場所である剣沢ダムから西小地区へ水が流れ込んでいるだけではなく、多くの支流が集まって浄水場できれいにされて私たちのもとへ届いていることを知った。

・社会学習で浄水場（上水道）と浄化センター（下水道）の見学を行う。私たちの使用した汚水が微生物のおかげできれいな水に戻っていく様子に感激した。帰ってきて、今ある水や働いてくれている微生物を守るためにできることを考え合うことができた。すぐにできることでは、「節水を心がける」「水を使うときの工夫」「排水溝に流す水は油や薬品を入れない」など学んだ内容を生かして意見する様子があった。

・9月には剣沢ダム、横倉堰（須賀川）や、奥志賀高原の取水口となる大沢を見学した。直接口にできる美しい水に出会い、イワナも泳いでいる川や、ごみ一つない自然を満喫した。また、西地区へ水を運んでいる灌漑排水事業の方々のお話を聞き、先人の努力や苦勞を学び、今のおいしい果物や米や野菜が採れるのもそのの方々のおかげだということを実感することができた。

・県巡りでは松本にも拾ヶせぎという、土地を潤すために作られた幅5mのせぎがあることを知り、実際に見てみたいということで見学場所に選び、北アルプスから流れてわき出すわき水により栽培されているわさび農場の見学にも行くことができた。たくさんのわき水の量や、透き通る水の美しさを目の当たりにして、私たちの山ノ内町の水のきれいさとも比較して考えることができた。

・今後…この水や自然を守り続けて行きたいという気持ちを強く持った子どもたちは、自分にできることを考え実行する計画を立てている。言うとはなかなか難しいため、具体的に実行している活動を模索している。〈水を守るために ごみをなくしたり減らしたり 植物・自然を増やす〉

・前坂大根の栽培では、特徴のある種の蒔き方、消毒の方法、また、漬け物の際に山ノ内町のりんごジュースを取り入れた工夫などを知ることができ、地域に伝わる漬け物について理解を深めることができた。

・前坂大根をきっかけに、県内の伝承野菜やについて知識を広め、それに関わって活動をしている方々の存在を知りその魅力に触れるよい機会となった。

・社会見学や、前坂大根でお世話になった方に感謝の気持ちを込めてメッセージを渡すことができた。お礼の会を企画している。

5. 指導方法・体制の工夫

- ・社会見学の行事と連携して町役場の職員の方々、灌漑排水事業の方々などと連絡取りながら、安全に学習を進めることができた。
- ・前坂だいこんは、「前坂大根の会」の方々に実際の指導をしていただき、町の地域振興課と、県の事業として栽培活動を行った。

